

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2016年第42週
(10月17日～10月23日)

- * 2016年10月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「梅毒が急増している」も掲載しています。

平成28(2016)年10月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

定点把握対象疾患 報告数 2016年42週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2016年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		39週	40週	41週	42週		
小児科	RSウイルス感染症	665 2.56	723 2.79	527 2.03	436 1.67	261	264
	咽頭結膜熱	68 0.26	70 0.27	48 0.19	62 0.24		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	414 1.59	399 1.54	323 1.25	491 1.88		
	感染性胃腸炎	1,089 4.19	1,170 4.52	1,051 4.06	1,338 5.13		
	水痘	85 0.33	96 0.37	72 0.28	91 0.35		
	手足口病	461 1.77	498 1.92	423 1.63	371 1.42		
	伝染性紅斑	18 0.07	15 0.06	19 0.07	22 0.08		
	突発性発しん	146 0.56	157 0.61	123 0.47	130 0.50		
	百日咳		7 0.03	4 0.02	9 0.03		
	ヘルパンギーナ	329 1.27	438 1.69	206 0.80	144 0.55		
	流行性耳下腺炎	221 0.85	215 0.83	214 0.83	247 0.95		
	川崎病 *1	3 0.01	7 0.03	7 0.03	3 0.01		
	不明発しん症 *1	31 0.12	25 0.10	21 0.08	19 0.07		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	63 0.15	96 0.23	98 0.24		
眼科	急性出血性結膜炎			2 0.05		39	39
	流行性角結膜炎	30 0.77	26 0.67	23 0.59	21 0.54		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	1 0.04	1 0.04	3 0.12	1 0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	3 0.12	1 0.04	4 0.16	2 0.08		
	マイコプラズマ肺炎	28 1.12	53 2.12	43 1.72	41 1.64		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2 0.08	3 0.12	1 0.04	1 0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4		2 0.08		1 0.04		
	インフルエンザ入院	1 0.04	2 0.08		2 0.08		

2016/10/26集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・RSウイルス感染症、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、過去5年平均と比較して高い値で推移している。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2016年42週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	59		1	6		7		2		1	
6～11か月	96	3	1	93	4	54		36		19	
1歳	178	15	21	187	7	153	1	74		55	6
2歳	61	5	34	152	7	57	2	14		27	11
3歳	25	5	44	134	6	26	1	1	2	12	17
4歳	10	8	53	138	8	25	2	2		8	28
5歳	6	3	52	102	14	15	3			7	28
6歳		9	65	82	11	10	3		1	6	31
7歳		2	53	74	10	6	4			1	33
8歳		4	45	57	7	5	2		1	3	29
9歳		4	39	39	8	4	1	1		1	22
10～14歳	1	2	47	109	9	5	2		2	2	37
15～19歳			8	27					1		4
20～29歳		2	28	138		4	1		2	2	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	436	62	491	1,338	91	371	22	130	9	144	247
先週比	-91	14	168	287	19	-52	3	7	5	-62	33

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月						1	1				
6～11か月		3	1								
1歳	3	6	3		1			3			
2歳		4	4		1			3		1	
3歳		2	9					3			1
4歳			8					3			
5歳		2	13					4			
6歳		1	7				1	2			
7歳			1					4			
8歳			7					4			
9歳		1	3					2			
10～14歳			22		3			8			1
15～19歳			10		2						
20～29歳			3		3			1	1		
30～39歳			4		5			1			
40～49歳			14		4						
50～59歳			2		1			2			
60～69歳			4								
70～79歳			2		1						
80歳以上								1			
合計	3	19	117		21	1	2	41	1	1	2
先週比	-4	-2	19	-2	-2	-2	-2	-2		1	2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2016年42週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	0.67		0.67		1.00	1.00					0.33
中央区	2.00		1.33	5.33		3.00		1.33		0.33	0.33
みなと	2.00	0.17	1.33	6.17	0.17	2.17		0.17		0.17	0.67
新宿区	3.13	0.25	2.00	5.88	0.13	0.25		0.25			0.38
文京	0.25	0.50	0.75	2.75	0.25	1.50		0.75			0.25
台東	4.00	1.50	1.50	6.75		0.50		1.25			1.75
墨田区	1.40		0.20	1.20	0.20	0.20	0.20	0.40		0.60	
江東区	1.22	0.67	1.33	11.11	1.00	1.89	0.11	1.00		0.67	0.78
品川区	0.50	0.25	1.00	6.88	0.13	0.75	0.25	0.63		0.13	0.63
目黒区	3.80	0.20	2.00	5.80		3.00	0.20	0.40	0.20	2.00	0.60
大田区	1.00	0.69	3.38	9.69	0.23	2.54	0.08	0.54	0.31	0.69	1.23
世田谷	1.31	0.13	2.00	5.50	0.63	2.50	0.19	0.38		0.56	1.38
渋谷区	0.50			3.00		0.25		0.25			
中野区	1.83		1.17	8.50	0.50	1.33	0.17	0.83		1.83	1.17
杉並	0.64	0.09	0.73	3.00	0.09	0.45		0.45		0.36	0.09
池袋	0.75		0.50	3.00		1.25					
北区	0.14	0.14	0.71	6.43	0.14	0.71		0.71			0.29
荒川区	4.25		1.75	3.50	0.75	2.25		0.50		0.75	1.25
板橋区			0.70	1.80	0.30	0.50		0.30		0.10	0.50
練馬区	0.85		5.00	3.69	0.92	1.62	0.15	0.62	0.08	0.92	0.15
足立	2.62	0.15	1.92	4.92	0.38	0.92	0.15	0.23		0.62	0.62
葛飾区	0.38		1.38	3.88	0.38	1.25	0.13	0.50		0.38	1.38
江戸川	2.08	0.25	2.92	7.92	0.17	1.33	0.08	0.42		0.42	0.33
八王子市	4.00		2.09	7.82	0.45	1.18	0.09	0.55	0.09	0.91	2.91
町田市	0.63	1.63	1.25	7.25	0.25	0.88		0.63		1.13	2.13
西多摩	1.88		1.13	3.50		1.50	0.13	0.13	0.13	0.63	0.63
南多摩	2.44		2.11	4.44	0.33	0.89	0.22	0.56		0.33	0.56
多摩立川	1.77		1.62	3.08	0.31	1.46		0.31		0.31	1.00
多摩府中	1.75	0.10	1.50	3.55	0.30	1.95	0.10	0.50	0.05	0.65	2.55
多摩小平	2.73	0.60	4.07	3.33	0.53	1.93		0.80		0.87	0.60
島しょ											
東京都	1.67	0.24	1.88	5.13	0.35	1.42	0.08	0.50	0.03	0.55	0.95

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田	0.33		0.25					2.00			
中央区			0.40								
みなと									1.00		
新宿区			0.25		0.50			4.00			
文京			0.14		2.00						
台東			0.29								
墨田区			0.13					2.00			
江東区		0.11	0.79								
品川区			0.33								
目黒区		0.20	0.63								
大田区		0.23	0.65								
世田谷		0.19	0.52		1.00		0.50	0.50			1.00
渋谷区			0.14		2.00			6.00			
中野区			0.40		1.00						
杉並		0.18	0.41		2.00			2.50			
池袋					2.00			6.00			
北区			0.09								
荒川区	0.50	0.25									
板橋区			0.06					1.00		1.00	
練馬区		0.08	0.19		1.50						
足立					2.00						
葛飾区			0.15				1.00	2.00			
江戸川			0.25								
八王子市		0.09	0.17					1.00			
町田市			0.15								
西多摩		0.13	0.14			1.00					
南多摩			1.29								
多摩立川		0.08	0.10								
多摩府中			0.25					1.00			
多摩小平		0.27	0.09		1.00			1.00			
島しょ											

東京都	0.01	0.07	0.28		0.54	0.04	0.08	1.64	0.04	0.04	0.08
-----	------	------	------	--	------	------	------	------	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2016年42週

	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	2		2		3	3					1
中央区	6		4	16		9		4		1	1
みなと	12	1	8	37	1	13		1		1	4
新宿区	25	2	16	47	1	2		2			3
文京	1	2	3	11	1	6		3			1
台東	16	6	6	27		2		5			7
墨田区	7		1	6	1	1	1	2		3	
江東区	11	6	12	100	9	17	1	9		6	7
品川区	4	2	8	55	1	6	2	5		1	5
目黒区	19	1	10	29		15	1	2	1	10	3
大田区	13	9	44	126	3	33	1	7	4	9	16
世田谷	21	2	32	88	10	40	3	6		9	22
渋谷区	2			12		1		1			
中野区	11		7	51	3	8	1	5		11	7
杉並	7	1	8	33	1	5		5		4	1
池袋	3		2	12		5					
北区	1	1	5	45	1	5		5			2
荒川区	17		7	14	3	9		2		3	5
板橋区			7	18	3	5		3		1	5
練馬区	11		65	48	12	21	2	8	1	12	2
足立	34	2	25	64	5	12	2	3		8	8
葛飾区	3		11	31	3	10	1	4		3	11
江戸川	25	3	35	95	2	16	1	5		5	4
八王子市	44		23	86	5	13	1	6	1	10	32
町田市	5	13	10	58	2	7		5		9	17
西多摩	15		9	28		12	1	1	1	5	5
南多摩	22		19	40	3	8	2	5		3	5
多摩立川	23		21	40	4	19		4		4	13
多摩府中	35	2	30	71	6	39	2	10	1	13	51
多摩小平	41	9	61	50	8	29		12		13	9
島しょ											
東京都合計	436	62	491	1,338	91	371	22	130	9	144	247

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田	1		1					4			
中央区			2								
みなと									1		
新宿区			3		1			8			
文京			1		2						
台東			2								
墨田区			1					2			
江東区		1	11								
品川区			4								
目黒区		1	5								
大田区		3	13								
世田谷		3	13		2		1	1			2
渋谷区			1		2			6			
中野区			4		1						
杉並		2	7		2			5			
池袋					2			6			
北区			1								
荒川区	2	1									
板橋区			1					1		1	
練馬区		1	4		3						
足立					4						
葛飾区			2				1	2			
江戸川			4								
八王子市		1	3					1			
町田市			2								
西多摩		1	2			1					
南多摩			18								
多摩立川		1	2								
多摩府中			8					3			
多摩小平		4	2		2			2			
島しょ											
東京都合計	3	19	117		21	1	2	41	1	1	2

定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
9/26	流行性角結膜炎	51	結膜拭い液	アデノウイルス4型
9/28	手足口病	5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
9/29	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
9/29	流行性角結膜炎	35	結膜拭い液	アデノウイルス54型
9/30	RSウイルス感染症	2M	咽頭拭い液	RSウイルスB型
10/3	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
10/3	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群5型
10/3	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
10/4	ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群10型
10/4	手足口病	10M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2016年40週			2	
2016-2017年 シーズン累計*			5	

* 2016-2017年シーズンの開始は第36週(2016年9月5日～)

<感染症豆知識>

「梅毒が急増している」

梅毒は、戦後には年間 20 万人を超える患者がいたほどにありふれた病気だった。ペニシリンの登場によって患者数は激減したが、ここ数年急増している。1999 年から 2012 年は 500 例から 800 例で推移してきたが、13 年、14 年と千件を超え、15 年は 2,697 例で前年比 1.6 倍となっている。しかも 14 年以降は若い女性の報告数が増加している。その理由として、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) などの普及により出会いが容易になっていることや、口腔性交、肛門性交など多様な性行動によって、男女間の「普通」が大きく変わったためとの声も聞くが、詳細は不明である。

梅毒を引き起こす病原体は梅毒トレポネーマ。感染者との粘膜の接触を伴う性行為や、キスなど性行為に類似した行為によって感染する可能性がある。一般には、皮膚や粘膜の小さな傷から菌が侵入し、血流に乗って全身にさまざまな症状を引き起こす。胎盤を通して胎児に感染したものを先天梅毒、それ以外を後天梅毒と呼んでいる。さらに、何らかの症状が現われた場合を顕症梅毒、症状がなく検査だけで診断されるものを無症候梅毒という。

不特定多数の人との行為でリスクが高まるのは当然だが、無症候梅毒の方との行為では予防が難しい。そのためにも、早期発見のための検査の重要性と併せてコンドームを適正に使用するなどの予防教育、さらには感染の事実が明らかになった場合にはパートナーとともに治療を完了することが必須である。

15 年における東京都の届出数 1,044 件のうち新宿区が 431 件 (41.2%) を占めていることから、新宿区保健所は医療機関への調査を開始した。梅毒診断の有無だけでなく、外国籍、性風俗業の従事歴など、患者の特性を聞いている。このような調査結果によって、最近の梅毒流行の原因が明らかになることを期待したい。

(文責 一般社団法人日本家族計画協会理事長 北村邦夫)